

札幌彫刻美術館友の会会報

いづみ

第4号

題字 國松明日香氏

本郷新彫刻シリーズ 4

「花束」

1971 (昭和46年) 作
札幌市南区五輪大橋両側
札幌冬季オリンピック記念・『石華の像』ととも
に設置された。
女の子がマントを着、花束を持ってオリンピック
を歓迎している。(仲野)



ネエ ダンナサン あるいは未・和・動

“I Say, Sir” or Mi·Wa·Do (Future·Harmony·Movement)

阿部典英

中山峠に立つ。

澄み切った大空が広がっている。この大空を突き破る作品を作りたいと思った。

中山峠は札幌市の中心部から車で約55分のところに位置する。道民からも大変親しまれている観光地である。国道230号線を通って洞爺湖方面に行く途中かならずと言っていい程ここで皆一休みする場所である。そこの左側の坂道を上がった処の右側に『中山峠森の美術館』が建っている。

今回のモニュメントの設置目的は「中山峠森の美術館」の来館者増を図るためと位置付けられている。その理由としては、この美術館の下にある道の駅『望羊中山』には数多くの来館があるが、その流れを上の上の美術館にも繋げたいと



の狙いである。

こんなテーマを与えられ、次のようなことを考えてみた。

- 1 家族の表現 (暖かい雰囲気を出す=複数の形)
- 2 足を運ぶ表現 (動きのある形)
- 3 楽しい表現 (変化のある踊っているような形)
- 4 歴史の表現 (先祖を敬う形=道祖神、旅行者を守り、邪神をさえぎるといふ神で村里の境などに祭る)
- 5 農業の表現 (芽生えの成長する向天への形)

下から見て「あれは何だろう」とまず興味をそそるフォルム (形、構造) にし、側まで足を運ばせ、美術館へと繋げることを念頭において造形性を十分考慮して制作することにした。

しかし実際にどんな形にするのか試行錯誤を重ねながら何枚かのアイデアスケッチを行った。

その中から制作したものがコンセプトを一番良く表現している形体と考え、町側と打ち合わせを行った。結果これでよろしいとの了承を得て、具体的な制作に入った。

材質は、屋外の設置になるため風雪等に耐久であり、錆びないステンレスにした。美しい外景が映る鏡面仕立てとしたが、だだの平面鏡面だけではなく、楽しきを出すアクセントの黒点を四角錐の一面に10数個凹状に入れた。

上部の中心に楕円状の空洞を設け、ここから見える実景と鏡面に映る外景の虚と実の世界を表現出来る構造とし、モニュメント自体と自然との融合を考慮した。

同じ形体を大(高さ4.5メートル)、中(高さ4.0メートル)、小(高さ3.5メートル)の3体を配置し、和という親近感を持たせた。動きのある形は複数の足(6本)を配し、生きものの雰囲気表現し、又頭部には毛の様にも見える触手を配してユーモアを織り込んだ生命力を表現した。

~~~~~

### 「本田明ニギャラリー」を訪れて

原典夫 会員

私が住む山鼻地区の閑静な住宅街の一角(中央区南15条西13丁目)に、「本田明ニギャラリー」が本田氏の遺族によって、この4月に開設された。

コンクリート打ち放しの新しい3階建ての建物だが、特別に標識もないのでちょっと見過ごしやすい。よく見ると入り口に *Meiji Honda Gallery* と小さく書かれた表札がある。

中に入るとすぐ展示スペースになり、まず1980年に東京での個展に寄せた本郷新のメッセージが掲げられている。本田明ニのことを最も知る彫刻家の文章で、これには本田明ニの人となりや彼の芸術の本質について触れられているように思われる。

展示スペースは約61㎡で、1-2階の一部吹き抜けのある屋内と屋外の中庭があり、南西に面して明るい開放感のある空間となっている。

全体的な基本形は四角錐を逆にし、町やここを訪れる人々の拡がりの意味する形とし、これらのことを全て包含し、作品名を『ネエ ダン ナサン あるいは未・和・動』と命名したが、中山峠の空を突き破ることが出来たのだろうか。

(彫刻家、大学教授)

### この秋開催される阿部典英氏の彫刻展

- 1 北海道立体表現展  
北海道立近代美術館  
9月6日～15日
- 2 阿部典英回顧展  
芸術の森美術館  
9月7日～10月19日
- 3 阿部典英展『貝と遊ぶ』  
テンポラリーギャラリー  
9月1日～30日
- 4 阿部典英ドロイング展  
ポルトギャラリー  
9月1日～30日

~~~~~

1階の吹き抜けには、1979年に旭川の総合体育館前に設置された「スタルヒンよ永遠に」の高さ3米余りのスタルヒンの石膏原型が置かれている。1-2階の展示室には、その時代、時代に制作された木彫、ブロンズ、テラコッタやデッサンなど20数点の代表的な作品が展示されている。ここを管理している近藤泉さん(遺族)によれば、円山のアトリエには200点をこえる作品が収蔵されているので、時には展示品を入れ替え、また中庭にも野外向けの彫刻を展示したいとのことである。

本田明ニは、北海道に根をおろして彫刻活動をしたはじめての彫刻家として、その作品の多くは北海道の自然や生活をモチーフとしているといわれている。

この「本田明ニギャラリー」が遺族や関係者の願いに沿って、末長く札幌市民に愛され、本郷新の札幌彫刻美術館とともに、北海道の彫刻美術文化の振興に大いに寄与されることを願って止みません。

第11回 本郷新賞の選考 始まる!

隔年で、野外に設置された彫刻に対して贈呈される本郷新賞の選考が始まりました。彫刻美術館主催のこの賞の選考過程を、友の会の会員にもわかり易くまとめてみました。

先ず、本郷新賞の要綱を見てみましょう。

- 1.趣旨：彫刻家本郷新の半世紀にわたる業績を記念し、彫刻芸術の振興に寄与するため賞を贈る。
- 2.主催：財団法人札幌彫刻美術館／本郷新賞運営委員会
- 3.後援：文化庁／北海道／北海道教育委員会／札幌市／札幌市教育委員会
- 4.選考対象：2001年1月から2002年12月までの2年間に日本全国のパブリックスペースとしての広場、公園、街路、公共建築物等に設置された彫刻で、作者の国籍は問わない。
なお 作品は誰でも鑑賞できる場所に常設されていること。
- 5.選考方法：あらかじめ委嘱された推薦委員の推薦作品の中から選考委員が1点を選考する。
- 6.顕彰：選考された受賞作の作家に対して賞状および賞金100万円を贈呈する。

以上のような要綱に則り、4月半ばに推薦委員によって推薦された全国の作品の中から、7～9人の選考委員によって6月中に決定、7月に入ってから正式発表の運びとなっています。

第11回については正式発表前なので、この「いずみ」の題字を書いて下さった國松明日香氏が受賞なさった1989年第4回本郷新賞を例にとります。

この時の選考委員は 桑原住雄（武蔵野美術大学教授・美術評論家）／佐藤忠良（彫刻家）／匠 秀夫（茨城県立近代美術館館長・美術評論家）／舟越保武（前東京藝術大学教授・彫刻家）／堀内正和（前京都市立芸術大学教授・彫刻家）／本間正義（埼玉県立近代美術館館長・美術評論家）／柳原義達（彫刻家）／吉田芳夫

（彫刻家）の8人で、推薦された候補作品は全国39ヶ所64点にも上っていました。

1989年6月20日に東京で開催された選考委員会の審査の結果、國松明日香氏制作による札幌厚別公園に設置された『捷』が受賞作品と決定しました。

講評では「コールテン鋼という素材を生かした、どっしりと厚みのある立体構成が基本になり、全体としては軽快で見る方向により、変化するのが面白い。又、全体が空に向かって上昇していく数学的・幾何学的密度を感ずる。」とあり、《はまなす国体》のシンボルとしての作品は高く評価されたのです。

当時42歳だった國松明日香氏自身も、受賞に当たっての一言中で「…制作上の制約があった。それは、飽く迄も国体のモニュメントであり、私個人の作品ではないということである。幼い時からスポーツが苦手で、スポーツマンには羨望の眼差しを送っていた人間として、彼らを賛歌できるような作品を作ることができれば、結果として国体との関わりが生まれる様な気がした。幸いにも、今回の国体のスローガン〈君よ今、北の大地の風となれ〉は、日ごろ私が作品のテーマとして考えていることとの共通点多々あり、イメージを作り上げるのに、大変役立った。

…（中略）…作品模型を眺めながら、作品のタイトルに考えを巡らすうちに、敏捷・捷足・戦捷等の言葉が浮び、その一字をとって『捷』と名付けた。」と制作を振り返っています。

本郷新の精神を担って野外彫刻を制作し続ける作家にとっても励みとなり、私たちも改めてモニュメンタルな彫刻作品を見直す機会となる本郷新賞です。

9月には贈呈式と受賞作家による講演会・シンポジウムが行われ、同時に札幌彫刻美術館では受賞者展が開かれる予定となっています。

今年度はどなたが受賞されるのか、大変楽しみです。

（高橋淑子 会員）

平成15年度 友の会総会の挨拶

彫刻美術館との対話を深めましょう

友の会会長 橋本信夫

昨年の総会で会員による自主運営を宣言して満1年が経ちました。この間、入館者と会員の倍増を目標にして当美術館の諸行事の支援、作家のアトリエ訪問、講演会や親睦会の開催など様々な事業を展開して参りました。

お陰さまで、入館者数は6,000人を、また会員数も100名を越え、これまでにない手応えを感じて嬉しく思っております。

特に昨年度は彫刻美術館、会員および彫刻ファンを結ぶ会報「いずみ」を発行し、大きな反響を呼びました。これは多くの会員が様々なアイデアを凝らし、年4回の定期刊行に努力を重ねて下さったお陰です。

今後さらに札幌市民に広く認められるような、読みやすく中身の濃い記事で満たしたいものと願っております。会員の皆様におかれましてはこの編集やご寄稿に、積極的な参加を賜りますようお願いいたします。

この1年間は新生友の会を円滑に運営するため、会員同士の親睦や情報交換を心がけて参りました。しかし、当会の目的は単なる美術鑑賞や親睦だけではなく、会則にも謳われているように、広く彫刻美術館の諸事業を支援するところにあります。それで今年度は当館の展覧会や行事に出来るだけ多くの会員が参加して職員との対話を深めるとともに、当館の実情を理解しながら積極的且つ多面的な支援を図りたいと思っております。

つきまして多岐にわたる当美術館の諸事業について、会員それぞれのご経験と余暇を活かしたボランティア的ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、友の会の規約も設立後20年余りを経過し、現状にそぐわない箇所が見られます。そこで今年度はこの改正も検討したいと考えておりますので、ご意見を賜りますようお願いいたします。

多くの入館者を願って

札幌彫刻美術館館長 三輪 望

二年目を迎えられました新生友の会、本年度におかれましてもますますのご活躍とお一人おひとりの健康を祈念いたします。

昨年一年間、会員の皆様には当美術館に対しまして、ひとかたならぬご支援をいただき衷心よりお礼申し上げます。おかげ様で当面の目標入館者数を越えることができました。今年度も職員協力し鑑賞者が増加していくよう努力を重ねていきます。

さて、今年1月、美術部門の研究協議会が東京国立近代美術館で開催されました。当美術館は約2年半休館し全面改修工事を行い、リニューアル記念展『二十世紀美術がのこすもの』が終了した時期であった。研究協議会冒頭、辻村館長の挨拶が印象的であった。

「長いブランク明けの装いを新たに展覧会が終了した今、思うことはいろいろあるが、遠方から童心を持った中学生たちが来館して、心を楽しんでいる姿を拝見できたということである。」ということばであった。

全国各地から80数名の参加者の熱い思いの討議に参加し、講師先生の「美術館評価と美術館の在り方」にじっくり耳を傾けた。そして強く思うことは、職員と協力しながら、札幌彫刻美術館を盛りたてていかなければ、ということだ。全国の美術館がもつ課題「入館者増」にむけ、職員一人ひとりが運営に知恵を絞り、努力を続け、自己評価を実施し、次の展開に反映させている事実を目の当たりにした。特に小中学生をどのように入館者として結びつけるか、熱い会話であった。

平成15年度、札幌彫刻美術館は昨年度まではなかった、貸し館計画、夜間延長、小中学生無料開放等実施していく。教育普及事業、美術鑑賞の会、本館、記念館の展示を通して広く人々に本郷新の魅力を紹介していく気持ちを強く持った。

札幌彫刻美術館友の会平成15年度

総会・講演会が開催される！

総会

5月17日（土曜日）、平成15年度の札幌彫刻美術館友の会総会が開催されました。

総会には、会員31名が出席し、昨年度の事業活動と今年度の事業計画等について熱心な話し合いが行われました。

議事は、以下のとおりです。

（主なものを抜粋して報告します。）

第1号議案：平成14年度事業報告、収支決算報告と監査報告

- * 研修日帰りバス・ツアーについての質疑が1件ありました。
- * 会報「いずみ」の発行（3回）経過が説明されました。
- * 決算報告では、会員増による収入増について報告されました。

第2号議案：平成15年度事業計画と収支予算案

- * “安田 侃 野外彫刻展バス・ツアー” {6月22日（日）} と石狩方面研修日帰りバス・ツアー（10月中旬予定）ならびに Thanks Day 支援等の計画が提案され、承認されました。
- * 会報「いずみ」の定期刊行が承認されました。

第3号議案 平成15年度の役員選出

- * 会長に橋本信夫氏を選任し、幹事11人と監事2人が選出されました（10頁）。
- 友の会活動の飛躍が期待される新年度に向けた有意義な総会となりました。（三上会員）

なまこ山散策

総会に先立って、午前11時から当美術館に隣接する通称『なまこ山』（宮の森緑地）で国兼治徳先生による野草の説明と本郷新の2体の彫刻の鑑賞が行われました。

講演会

総会終了後に“彫刻家 川上りえ氏（道展会員、石狩市在住）”の講演が行われました。

川上りえさんはパワーポイント プロジェクターを駆使し、長沼町にある作品“ANCIENT SUN”などの製作過程を映像も交えて説明されました。

大型作品を製作するためにフォークリフトを購入し、チェーンで作品を吊り上げたりしたこと、さらに、完成までほぼ1年を費やしたので設置当日の朝が特に印象深かったなど、作家ならではの様々なエピソードが語られました。

作品を削り、溶接で埋める工程、ランダムな磨き方、そして広さが生きるようなフォルムのことなど、製作についての貴重なお話を作家から直接聞くことが出来、出席者一同大変感銘を受けました。

最後に川上さんのアトリエや自宅の映像も紹介されるなど、終始和やかな講演となり、さらに今年の秋にはバスでアトリエを訪問しようということになりました。



（左は川上りえ氏の講演風景）



「なまこ山」散策の参加者一同

本郷新先生の思い出

新木葉子 会員

私は本郷先生のお若い時に生徒として絵のご指導をいただいた者でございます。現在よわいを重ねて八十歳を迎えようとしており、想い出も段々とおぼろになっておりますが、この機会にと思って筆を取らせていただきました。

第二次世界戦争への気配が近づきつつある昭和18年頃のことです。私は東京郊外の南沢にあります「自由学園」に在学しておりました。

学園長の羽仁もと子先生の理想として、音楽も美術にも先生は超一流の教授陣を用意して下さいました。お名前を挙げますと「石井鶴三、内田巖、清水多加示、木下繁そして若手の先生として本郷新、吉岡堅二、佐藤忠良、加山四郎、夭折された矢橋六郎（敬称略）といった、当時日本を代表する芸術家の方々です。と申しましたも当時15-6歳の未熟で世間知らずの私ですのでそんな偉い先生方とも知りませんでした。

週末の土曜日は「全校美術の日」と定められておりまして、普段の勉学に疲れた頭を思い切り楽しむ日と喜んで過ごしたように思います。

武蔵野にひろがる広大な敷地に三々五々、全校生徒300名が画板を肩に散らばりますと、間もなくにぎやかな談笑のグループが先生方を中心に其処此処に出来上がります。

画板をひろげた私の肩越しに本郷先生は「色遣いがきれいだね」とか、「構図がまとまってるネ」とか、稚拙な私の画ですがそれでも良い点を見つけて褒めて下さるやさしい先生でした。

絵の具はポスターカラーを使うように指示されておりました。水彩絵の具に比べてにがりも少なく、ホワイトをまぜると軟らかな色合いになります。ホワイトといえば唯一先生のご注意として、画面に色を塗らないところが無いようにホワイトを塗るか、地色を塗ってホワイトでつぶすかを、厳しくおっしゃったように思います。彫刻家らしく物の見方が立体的だったことが今頃分ったのです。また黒い色はきたなくなるから使わぬようにともいわれ、陰影に気を使ったものです。

後に私は水墨画を習っていたのですが、これは墨だけで色を創造する、また紙面を残すことによって想像させるということを知りました。洋画と日本画の全く反対な考え方を知って面白く思っています。

さて卒業後の戦中戦後、子育てそして社会参加の機会も終え、全くの老後に入ってどう余暇を過そうかと思った時、絵を描いて見ようと思いました。其処には若い時に先生によって植え付けていただいた楽しく画を描くということがあったからでしょう。おかげ様で友人と日本画の展覧会を開くことも出来ました。本郷先生は、「そんなに褒めたかな！」などおっしゃるかもしれませんが、その人のよい点を見つけるという教育者としての一番大切な力が備わっていらしたのだと思います。

立派な彫刻の数々が宮の森に行けば見られます。そして先生の風格に触れられるという大切な財産が守られるのも地元の人達の力があるからではないでしょうか。

本郷先生を偲び楽しい老後を迎えられた御礼を申しあげて筆をおきます。

なまこ山散策

濱 久子 会員

5月17日 朝から気持ちよく晴れ、私は思わず「なまこ山」日和と叫んだ！

この山の名はこの辺が馬場牧場だった頃、遠くからは海のなまこの形に見えたので付けられたらしい。現在は市の緑地公園の一つである。

11時には すでに入り口の藤棚の下に23~24人の参加者が集っていた。

橋本会長のご挨拶、次いで仲野さんがなまこ山の本郷新の2体の像を解説(いずみ3号参照)された。続いて今日のご案内役、国兼治徳先生から、まず隣家の庭に咲いていたシラネアオイ、ヒトリシズカ、ニリンソウなどの説明を受けた。シラネアオイは日光の白根山に咲くところから名がつき、外国では見られない、またヒトリシズカの白い部分は花でなくオシベであるなど。

先生のなまこ山の植物リストによると、シダ植物はスギナ；裸子植物はイチイとハイイヌガ

ヤ；被子植物(木本)はミヅナラ、ハルニレ、ミヤマザクラなど34種；草本はオオウバユリ、マイヅルソウ、イワミツバなど20種。早速右側の樹のイタヤカエデ、ウルシなど、屈み込んで説明をして下さるのを、参加者はプリントを見ながら熱心に付いて歩いた。丸太の階段を上り終えると左の木の間から、カラフルな赤屋根の小屋が見え、そこが馬場牧場の名残という。その斜面には白樺が多く、白い幹と萌黄色の若葉がすがすがしい。ここで面白いお話を聞く。それは、白樺の木は明るいところを好み育つので、白樺林の下で白樺は育たない。一方、松は日の差さないところでも育つので、将来白樺林がなくなり、松林に世代交代してしまう。

木々をわたる5月のさわやかな風、木々を飛び交う小鳥の声、小さな小さな山だけど自然の恵みにどっぷり浸かって過した私たち、国兼先生ありがとうございました。

彫刻美術館に接したこの山にも、四季折々新しい発見がある。自然と彫刻が見事に組み合わせられ、奥行きが深くなったこのなまこ山をまた訪ねましょう。

メセナ：マエケナスすること

橋本信夫 会員

3月15日はシーザーの暗殺された日である。2000年以上前の出来事にも係わらず欧米人はシーザーに対して、日本人には到底理解もできない格別な思い入れがあるらしい。このため毎年この時期、欧米ではシーザーにまつわる話が必ずどこかで披露される。

今年はどこから出るのだろうかとテレビウォッチングをしていたところ、イラク戦争の前夜、米軍のフランス総司令官が、記者団を前に、シーザーが殺されたのは兵士に長演説をしたからだとの珍説をご披露し、記者に暗殺されないよう早めに終えたいと言って失笑を浴びていた。

シーザー暗殺後、甥孫のオクタ비아ヌスが後継者となり、ローマ帝国初代皇帝アウグストスとしてローマ帝国繁栄の基礎を確立したことは述べるまでもない。このアウグストスには若い

頃より2人の有能な補佐役がいた。1人は将軍として軍事・行政に抜群の能力を発揮したアグリッパであり、もう1人はローマの外交、財政、文化を支えたマエケナス（メチェナス：Gaius Maecenas 74?~8 BC）である。

マエケナスは、オクタ비아ヌスがアントニオとクレオパトラを攻め、自殺に追い込んでエジプト王国を手にしたことから、エジプト経営に参加して巨額な財を成すようになる。特に彼の後半生は、アウグストスの親友として皇帝の身近で広報活動や財政面に貢献するとともに、ホラチウス、ヴェルギリウスなど、ローマ詩人のパトロンとなり、私財の多くを芸術文化の助成に費やすようになった。

このため、後世マエケナスの名は、「芸術文化の振興に私的援助をする」ことを意味するようになる。メセナはマエケナスのフランス読みである。ヨーロッパでは、この流れを受けてルネッサンス時代にはメジチ家などがメセナとして文芸復興に大きな役割を果たすこととなる。

日本では、バブル絶頂期に多くの団体や企業がメセナとして様々な文化事業の支援に参加していたが、最近は経済事情の低迷を反映してメセナ企業が著しく減ったと言われている。しかし、メセナは必ずしも財力のある人や企業・団体だけのものではない。

この夏美唄で開催される安田 侃展覧会が市民グループの支援で実施され、募金運動も好調と聞いている。美術ファンが市民の目線で芸術文化の支援に直接参加するようになったことの意義は大きい。

今の世、健康で専門的知識、技能や余暇を持ち、社会事業や文芸振興に役立ちたいとする志（Noblesse oblige*）を持つ人は大勢いる。

これらの人生経験豊かな市民が、それぞれの職業経験、見識、健康エネルギーを持ち寄り、美術ファンとしての持ち味を生かしながら作家や美術館支援に向けて組織的に取り組む姿に、地域文化の新しい潮流を見て取れる。

*（Noblesse oblige：ノーブレス・オブリージェ

貴族、財産家、学識経験者などの社会的身分に伴う道徳上の責務で、公共事業に私的奉仕を行う場合が多い）

北海道の野外彫刻の現状（１）

仲野三郎 会員（野外彫刻写真家）

私が、北海道には野外彫刻が何点あるのだろう、と彫刻愛好者なら誰でも思う単純な疑問を解決しようとカメラを片手に歩き出して早くも10年がたちました。

何処にどの様な作品があるのだろう、新聞、雑誌、テレビ、そして人づてに情報を集めるのですが個人では限界があり、心細い限りでした。幸いにして今年の3月、北海道美術館学芸員研究協議会から道立近代美術館が開催する研究会で、北海道の野外彫刻の現状を話すようご依頼があり、お話しする機会を与えていただくと同時に全道各地の学芸員の方々のご面識を得ることが

出来ましたので、もはや一人ではないと心強く思っているところです。

さて、そしてその成果ですが、昨年（2002年）末で2173点の写真となりました。全道の野外彫刻の90%は越えたのではないかと考えています。

今回はそれを纏めるようお話がありましたので。その概要を3回に分けてお知らせします。

2173点は屋内設置を含んだ数で、パブリック空間（屋内と野外の有料施設を除く）の作品数は1762点です。

その状況を表-1に示します。

表-1 支庁・市町村別設置数

地域	支庁	設置数の多い市町村
道央	石狩 460	札幌 370、江別 20、恵庭 19、千歳 17
	後志 67	小樽 28、岩内 9、真狩 6、神恵内 6
	空知 187	岩見沢 38、滝川 18、栗山 13、美唄 11
	日高 41	静内 14、浦河 12、様似 7、新冠 3
	胆振 179	室蘭 40、苫小牧 40、虻田 28、洞爺 19
道南	渡島 85	函館 38、長万部 9、七飯 9、八雲 8
	檜山 33	上ノ国 11、奥尻 8、瀬棚 7、江差 3
道北	上川 208	旭川 87、東川 21、東神楽 15、美瑛 14
	留萌 20	幌延 9、留萌 8、小平 2、羽幌 1
	宗谷 42	稚内 28、豊富 4、猿払 3、枝幸 3
道東	十勝 150	帯広 42、芽室 29、中札内 15、士幌 11
	網走 136	網走 24、紋別 18、北見 15、美幌 10
	釧路 107	釧路 61、弟子屈 13、阿寒 11、白糠 7
	根室 47	羅臼 16、中標津 13、根室 12、標津 4
合計	1762	

注 この表から以下のことが汲み取れます。

- 1 地域別では道央が934点で53%（半分超）
 - 2 14支庁中の最多は石狩で、全道の26%（約1/4）
 - 3 市町村別では札幌が最多で、全道の21%（道央の40%）
- 今回は作家別の状況をお知らせいたします。

抜海の目

何回彫刻美術館に行きましたか？

このところ毎年 5000 人程度で頭打ちとなっていた札幌彫刻美術館の入館者が、平成14年度は平成8年度以来久々に 6000 人を越えたという。美術館では、美術館の質は入館者で計れるものではないとしながらも6年ぶりの入館者増はやはり喜ぶべきものとし、今年度はさらなる目標として7000人を掲げた。

一方、私たち友の会はこの快挙を「いずみ」発刊をはじめとする友の会の自主運営と草の根的な支援活動の余波であると信じつつも、美術館の目標を2倍3倍にするべく協力していかなければならないのではないだろうか？

さて、堅苦しい話はともかく、昨年度、あなたは何回彫刻美術館に足を運んだらうか？正直なところ、一度も行っていないという会員も大勢いるのでは？何時行ってもかわり映えがしないだの、特別展の若い作家の作品には興味がないだのと言いつつ見つけて、このところしばらく美術館には行っていないという人があなたの回りにいないだろうか？

優秀な営業マンは、自分の売り歩くものに対して絶対の自信を持って一点の疑いも抱かない。熱心なサポーターは臍足のチームがどんなに負け込んでも応援を止めない。私たち友の会の会員は美術館の営業マンでありサポーターだ！

美術館についてあれこれ批判する前に、まず友の会会員であることに誇りを持ち、自分自身で美術館に足しげく赴くことで美術館を大きく動かし、変えていく力が蓄えられるのではないだろうか。そしてそのことが、入館者数という具体的な形となって美術館への支援ともなる。

4人しかいない小さな私たちの大事な美術館！これを支えていくには美術館と友の会の相互の理解と結束が不可欠だ！

残念ながら美術館は歩いてきてはくれないのだから、近づくために第一歩を踏み出すのは会員のあなただ！

札幌彫刻美術館の将来を想う

財団法人札幌彫刻美術館は昭和56年6月29日オープン（当時の札幌の人口143万人、入館者数約2万人）以来22年を経過しております。（平成14年までの入館者総数23万人、現在人口の12.4%、平成14年度入館者数6千人）。20歳で成人と考えれば最早自立しなければならない年頃です。

顧みると札幌彫刻美術館設立の発端は本郷新のご遺志により、作品やコレクションと共にアトリエ（記念館）のご寄贈を受けたのを機会に、道路を隔てた隣地を北海道が購入、札幌市が本館を建設、その他多額の公費を投入し、市としては最初の美術館が誕生して今に至っています。

中央区と云う都心部に近く、自然環境に恵まれた素晴らしい立地条件でありながら、札幌彫刻美術館に何故か最近、地元の関心が薄く、市民の認識も著しく低いのが現状です。

当館の将来はひとえに、この状況の改善にどのように取り組み、どのように魂を入れるかに懸っているように思われてなりません。

多くの美術愛好家が市内のみならず道内外からもぜひ訪れたいと思うような魅力ある美術館として評価されることが発展の鍵を握ることでしょう。

ほとんど公費で22年間も運営されてきた彫刻美術館ですが、これをあえて『貸し館』にするのであれば、何故そうしなければならないかを明確に示した上で、美術館としての確たるビジョンのもとにフレッシュで集客力のある展覧会を企画下さるよう希望いたします。

本郷新記念館も展示スペースを広げ、空間を最大限活用しながら常設展示場として本郷新の充実した世界を作ることにより相乗効果を発揮し、再評価されるようになるものと思います。

185万人都市にふさわしい新生札幌彫刻美術館として多くの市民に期待され、何時までも愛され親しまれる美術館に成長されるよう期待しております。

北海道立体表現展 '03 の開催

主催 北海道立体表現展実行委員会
北海道新聞社
後援 北海道、北海道教育委員会
札幌市、札幌市教育委員会
会場 北海道立近代美術館特別展示室
会期 平成 15 年 9 月 6 日 (土) ~ 15 日 (月)
* これまで友の会行事に参加して下さった作家では次の方々が出展を予定しています。
渡辺行夫氏 阿部典英氏
岡沼淳一氏 佐々木けいし氏

* * * * *

彫刻美術館友の会ホーム・ページ

<http://sapporo-chokoku.jp>

長らくお待たせしました。

7月1日から開示します!!

彫刻ファンの新しい情報源です。

寄稿のお願い

- 会報「いづみ」は年に4回発行の予定です。
- * 会報を面白く、賑やかで深みのあるものにするために皆様の寄稿をお待ちしています。
 - * 彫刻ばかりでなく、芸術文化活動にかかわるものであればエッセイ、ニュース、短歌、記録など、何でも結構です。
 - * 800字(半頁)を基本にし、最大1600字までを予定しています。

編集後記

会員が分担して原稿を書き、集め、編集・印刷・発送し、新しい『いづみ』を会員にお届けする楽しさは格別です。

会報を通じて友の会組織が固く結ばれ、より効果的な美術館支援ができるようになるのを楽しみにしています。(橋本)

友の会だより

「安田侃の世界展」を見に6月22日美唄のバスツアーを実施しました。この印象は次号でお知らせします。

10月には石狩の佐々木けいし氏と川上りえ氏ご夫妻のアトリエの訪問も予定。

お楽しみに!

総会で友の会役員が承認されました。今年度もよろしく願いいたします。

平成15年度友の会役員名簿

	新旧	氏名	役員
1	再任	藤島 積	顧問
2	再任	寺山敏保	顧問
3	再任	前川一彦	顧問
4	再任	三輪 望	顧問
5	再任	浦口鉄男	顧問
6	再任	橋本信夫	会長
7	再任	齊藤美年子	幹事
8	再任	仲野三郎	幹事
9	再任	三上正一	幹事
10	再任	高橋淑子	幹事
11	再任	野崎泰男	幹事
12	再任	鈴木敏明	幹事
13	再任	吉田修子	幹事
14	新任	原 寿子	幹事
15	新任	岡本憲子	幹事
16	新任	米川由美子	幹事
17	新任	大竹明子	幹事
18	再任	濱 久子	監事
19	新任	高津多香子	監事

彫刻美術館友の会 会報「いづみ」No.4

財団法人札幌彫刻美術館内 編集責任者 濱久子
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目

電話とファックス：011-(642)-5709

平成15年4月1日発行

編集委員の連絡先：電話とファックス

齊藤美年子：643-7246

濱 久子：893-5212